

# みんなの環境

第50号 2022年5月20日

編集/発行 あつぎ環境市民の会  
<http://atsugikankyo.g3.xrea.com/>

## 2022年度定例総会を5月29日(日)

### 厚木南公民館で開催します

あつぎ環境市民の会 代表 \*井上 允

ロシアによるウクライナ侵攻や中国上海のロックダウン、インドの異常気象は世界経済の停滞、物価の上昇など私たちの暮らしに多大な影響をもたらしている。食料を輸入に頼っている日本は有事になると物価の値上げに翻弄されるので、自給を真剣に考えねばならない時期に来ているのではないかと思う。こんな時だからこそ農薬を使わない安全な食材を自ら育てる作業に挑戦してはどうだろうか。10坪から20坪程度の畑とクワ1本あれば家族で消費する野菜は賅えるし、自然の中で汗を流すことは健康維持にも効果がある。若年から高齢者まで誰でもできるのが農業だ。

畑が使えなければプランターでの栽培も可能だ。米ぬかを使って調理くずや落ち葉をコンポストでたい肥化し有機栽培を試みたらどうだろう。自分で作る野菜の味は格別なものになるはずだ。

\*

さて、あつぎ環境市民の会では来る5月29日(日)午前10時から厚木南公民館で定例の総会を開催します。コロナ禍で十分な活動ができなかった2021年度から一転して、今年は積極的に活動を展開したいと考えています。今回は議事のあとに～Go ごみニمامシティあつぎ～を掲げ循環型都市実現を目指してごみの減量化・資源化に取り組んでいる厚木市の環境政策について講演をお願いしています。会としても排出されるごみの半数を生ごみが占めている現状をどう解決していくか考える市民出前講座を年間計画で考えていますので会員の皆さんの積極的な参加をお願いします。

今回の会報には、あつぎこどもの森公園で水辺の生き物調査隊を指導している諏訪部晶氏に特別寄稿をお願いしました。こどもの森公園は希少種が多く生息する貴重な場所ですが、開園以来人為的に外来種が持ち込まれ、これを発見するたびに駆除に翻弄されている状態です。生物多様性あつぎ戦略を策定し環境保全に取り組んでいる厚木市にとっても、生物多様性の喪失につながるように、皆様にはこのレポートから現状を把握していただき、それぞれの立場でご協力をお願いいたします。

総会日時 5月29日(日)10:00～12:00

場 所 厚木南公民館和室

議 事 2021年度事業報告・収支決算

2022年度事業計画・収支予算(案)

記念講演(仮題) ～Go ごみニمامシティあつぎを目指して～ (講師:厚木市環境事業課職員)

\* (いのうえ まこと) 厚木市上荻野在住

# 地球環境保護に向けたレジ袋削減の実証実験（報告）

## － 森の里地区の挑戦 －

\*高村真和



### 1. 取組概要

令和3年2月から令和4年3月末までの1年2か月間、厚木市森の里3、4丁目自治会のモデル地区でペットボトルと缶類の資源収集の実証実験が行われました。従来のレジ袋等を出していた方法を、ごみ集積所に設置された網袋に直接入れる方法に変更しました。出し方のルールは以下の5つです。①ペットボトル・缶の中身を使い切って水洗いする。②ペットボトルはラベルを剥がし、キャップを取る、③ペット・缶を潰す、④レジ袋等は使わずに網袋に直接入れる。

⑤大量の場合は効率性を重視してレジ袋等を出す。④以外は厚木市の基本ルールと同じです。

### 2. 実証実験までの経過と期待効果

厚木市の「資源とごみの正しい出し方」では、ごみ集積所に出す袋は透明または半透明と定めていますが、実際には、ほとんどのレジ袋は中身が見えません。その結果、収集員はごみ集積所の山のようなレジ袋からペット、缶類、ビン類、金物類、電池等に峻別するため、必要に応じてレジ袋を破袋する必要があり、作業負荷が非常に大きくなっています。また、レジ袋は嵩張るために運搬車への積載量が減る問題があります。レジ袋は家庭からごみ集積所(または資源化センター)までの短い運命にあります。同時に、地球温暖化の大きな原因の一つとなっています。

そこで、自治会では、令和2年7月からレジ袋が有料となり、ペットボトルと缶類を資源ごみとして出す場合の経済的負担が増加したのを契機に、レジ袋を止めて網袋に入れて回収する方法を模索し、市と協議を重ね、地区内4カ所で実証実験を行うことにしました。

実証実験の期待効果は主に5つ — 【1】レジ袋廃止による各家庭の経済的負担の軽減

【2】収集員の破袋作業と積込作業の負担軽減 【3】収集員の新型コロナ感染リスクの軽減 【4】レジ袋削減によるごみ減量化と地球環境の保護 【5】省スペース化と後片付けの簡素化

### 3. 実証実験に対する住民の意識調査と分析結果

5か月が経過した昨年7月下旬に、実証実験の効果・課題と今後の対応について住民アンケートを実施しました。参加した全143世帯の60世帯（42%）から回答を得ました。



アンケート結果では、①レジ袋の削減効果が認められる。②ごみ分別の精度が進んだ。③ごみ集積所が綺麗になった。④ラベルを剥がし、キャップを外す人が増えた。⑤ペットボトルも缶類も潰して出す人が増えた。などの肯定的な意見が寄せられました。一方で、①ペットボトルと缶類を入れ易くするため網袋を大きくして欲しい。②網袋に触れずに入れられるように網袋を固定して欲しい。などの改善要望が出されました。

肯定的な意見の背景として、網袋を使用することで「見える化」が進んだ効果が大きいと考えています。レジ袋は中身が見えにくいためモラルが低下する傾向がありますが、網袋は中身が見えることから住民の意識変化が生じたと考えられます。アンケート結果でも、約30%の住民が「意識が変化した」と回答しています。また、同じ網袋を地域住民が共同使用することで、地域の一体感が生まれたことが良い結果を生んだと推測しています。

最後に今後の意向を確認したところ、「エリアを拡大して継続実施」が50%、「現在のエリアで改善して継続実施」が27%となり、合計77%の方が実証実験に賛同する結果でした。

### 4. 継続実施の改善点と最終アンケート結果

改善策として洗濯ばさみで網袋を緑の網カゴに固定し、ペットと缶類を入れ易い方法に改善しました。3月末の実証実験後の住民アンケートでは賛同者が80%に増加しました。

\*（たかむら しんわ）あつぎ環境市民の会 厚木市森の里在住

(特別寄稿)

## あつぎこどもの森公園に生息する外来種・国内外来種の現状

あつぎこどもの森クラブ（水辺の生き物調査隊長）\*諏訪部 晶

あつぎこどもの森公園では 2015 年 3 月に溜め池と水田が造成されたが、その年の 7 月にアフリカツメガエルの生息が発覚した。実験動物として販売もされているがこの地には居ないはずの外来種であり持ち込まれたものと考えられ、完全駆除に 2 年かかり成体 4 頭幼体 336 頭を駆除した。しかし 2021 年 10 月再び持ち込まれ幼体 2 頭を駆除したがまだ生息しているのかは不明である。

2015 年 6 月ホテルの観察時、溜め池近くでモリアオガエル 2 頭の声が聞こえた。次の年から溜め池にかぶつ

た木に卵塊が 1~3 個産んであるのを確認し駆除し続けた。2020 年のホテル調査の際には、溜め池、水田付近と広い範囲で 12 頭ものモリアオガエルが鳴いており、駆除を続けても増えていることに疑問を持ち移動の可能性もあると考え、公園に隣接する弁天山の池と馬込池を調べたところ馬込池に卵塊が 58 個もあり池には幼生が多数泳いでいた。2021 年は 5 月中旬から馬込池のパトロールで成体 60 頭、卵塊 86 個を駆除した。溜め池では成体 42 頭、卵塊 7 個駆除と増えていた。2022 年 5 月 15 日時点で溜め池には成体 4 頭、卵塊 3 個。馬込池成体 5 頭、卵塊 22 個を駆除したが、高枝ばさみが届かない塊 13 個は残念ながら放置したままである。国内の生息地から生息しない場所に人の手で移動したものを国内外来種と呼ぶ。神奈川県内のモリアオガエルは人の手による移入が濃厚で、生態系に及ぼす影響はまだ調べられていないが、樹上性のニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエルとは餌の競合も考えられるが、体の大きさを考えると両者はモリアオガエルの餌になってしまうことの方が大きいと考えられるため、こどもの森公園では生態系に影響を与えないよう駆除している。

特定外来生物に指定されているウシガエルは弁天山の池から幼体が年間 200~400 頭公園内に侵入してくる。開園以降湿地、水田、水路、溜め池にウシガエル駆除用の罠を 50 ほど仕掛けていますが、駆除しきれず移動経路に侵入防止柵を設置する準備を進めている。

2019 年 10 月溜め池の罠にアメリカザリガニが入った。こどもの森公園には昔からアメリカザリガニがいなかった稀有の場所であったが、何者かにより投入されたのだ。カイボリをしてのすくい取りや 30 個以上の罠を常設して対応したが繁殖を許してしまい 2 世代目が出現した。2021 年 6 月以降は捕獲されず完全駆除できたものと思われるが、いつまた投入されるか予断を許さない状況で、在来種の混獲による殺傷のリスクはあるが、監視用に罠を常設してモニタリングを続けなければならない。

公園という誰でも出入りできる環境では、生態系に及ぼす影響を考えずに誰がどんな生き物を持ち込むかわからない場であるため、来園者への注意喚起とモニタリングを行っていかねばならない。外来種対策は途方もない労力と時間を要する仕事が続いてしまうものである。



アフリカツメガエル



左からニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル

\*（すわべ さかえ）厚木市旭町在住

## 「フクシマから地球へ・未来アクションあつぎ」を開催

未来アクション実行委員 事務局 \*遠藤睦子

2022年5月15日、厚木市文化会館集会室で標題のシンポジウムを行いました。サブタイトルは「脱原発・脱石炭～気候危機を止める大転換を！」。東京電力福島第一原発事故の翌年から毎年3月前後に市内の脱原発を求める団体や個人の実行委員により「さよなら原発パレード」を行ってきました。昨年は事故から10年、コロナでも中止にしないイベントとして「さよなら原発アクション」をオンラインで行いました。そして今年、脱原発だけでなく気候危機回避までテーマを広げ、さらに若い世代と共に活動を展開していく必要から、若いアクティビ



未来アクショントーク

ゲストのみなさん



ストにおおいに語っていただきました。

5名の登壇者によるプレゼンのあと、上の3名のシンポジウム形式で行いました。

**鴨下全生（まつき）さん**：8歳で福島県で原発事故被災し東京に避難、いじめや健康不安に苦しみ高校生のときローマ教皇に直接訴えた、現在大学生で福島原発被害東京訴訟原告団の一員

**原有穂さん**：横須賀市の高校生 グレタさんが始めた Fridays For Future で気候正義を訴える。昨年イギリス・グラスゴーの COP26 に参加し世界の若者との出会い多くの気づきを経験。

**山崎鮎美さん**：350 New ENeration で気候正義、特に石炭火力発電の廃止を求める。建設中の横須賀石炭火力発電は完成で726万トンの年々のCO<sub>2</sub>排出（神奈川県全体で今7000万トンの年々）。

**池田優太さん**：神奈川工科大学の学生サークル SDGs HUB 代表 大学内外で活動展開中。

**あつぎ市民発電所**：地域での市民による再エネ普及活動、とくにソーラーシェアリングの紹介ファシリテーターとして、清川村の小林大介さんが若者たちの想いや抱えている問題点を引き出し、議論を掘り下げられました。若い世代のアクティビストの率直な声をしっかり受け止めりスペクトしつつ、幅広く世代を超えた動きを作っていきたいと思います。

会場参加 88 人、オンライン参加 23 人、YouTube は WiFi 中断のトラブルがありました前半は見られます。（下の QR コード）



\*（えんどう むつこ）厚木市旭町在住

### みんなの環境 第50号 2022年5月20日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 井上 允 / 制作 長岡 恂

<http://atsugikankyo.g3.xrea.com/>

事務局 〒243-0122 厚木市森の里 3-4-3 鷺谷雅敏方

e-mail : pxa05613@nifty.com ケイタイ : 090-7243-9254

郵便振替口座 00200-7-132779 (年会費 1000 円)

(C)あつぎ環境市民の会 2022